



やさしい日本語サロン



外国人との交流を主体に、UDCBK(アーバンデザインセンターびわこ・くさつ)で毎週火曜日に開催している「やさしい日本語サロン」。コロナ禍のため一時中止していましたが、6月からはオンラインで月2回開催(ZOOM使用)し、残り2回は希望者のみフリーに集まる場としてUDCBKにて開催しています。活動の中から生まれた「企画リーダー会」の方々が新しい方向を目指して活動中です。



コロナの影響で今までの日常が変わりつつありますが、みなさんは今日までいかがお過ごしいただいたでしょうか。やさしい日本語サロンでも、従来のように集まって話すことが難しくなり、関係者みんなで試行錯誤した半年間でした。自粛期間中はサロンも中止していましたが、自粛

が明けてからはズームを使ったオンラインサロンを開催しました。実際に開いてみて、オンラインの利点に気づきました。例えば、今まで小さい子どもがいるから自宅から出向くことが困難だと敬遠していた方も、「オンラインなら」と参加されたり、仕事や家庭の事情で草津市から離れてしまいサロンへ来られなくなってしまった方たちも、離れた所からサロンに参加できるようになりました。人と人の社会的距離を守らないといけない中でも、みんなが集えるサロンの存在が市民から必要とされていることを強く感じました。

(KIFA会員 安居 真菜美)

多様な人同士が助け合える住みよいまちづくりを目指し、今後も様々な企画を考えています。まずは「やさしい日本語」を理解し広めるための勉強会。さらに、「外国人向けの防災・防犯教室、公共施設等の見学ツアー」、「子育てをされている方向けの交流会」などです。活動をより充実させていくためには、行政や学校、そして様々な業種との繋がりが非常に大切だと考えます。情報交換や友達づくりの場として、より多くの人に参加してもらえよう、広報活動にも力を入れていきたいです。

(KIFAボランティアスタッフ 上尾 志乃)



「生きることは食べること」

コロナ禍の中で生活に不安を抱く留学生、技能実習生など多くの外国人の生活をサポートするため、草津市国際交流協会ではさまざまな活動に協力しました。今回はマスクの配布とフードバンク活動を紹介します。



春先からコロナで世界中がかつてない状況にみまわれましました。マスクの品切れが長引き、草津周辺の外国人もさまざまな困難を強いられる人たちが増えてきました。

そんな中で医学生や留学生たちから「マスクがない」という声をきくようになりましたが、KIFAの役員や滋賀県からマスクを寄付していただいたり、ボランティアさんからも手作りのマスクを提供していただいたりして、手渡すことができました。

さらに3月中頃から休校になり行き場を失った給食食材がフードバンクびわこから届くようになりました。「フードバンクびわこ」とは『もったいないを笑顔と絆に』をスローガンにフードドライブから集まった食材などを生活困窮者へと支援している団体です。

4月から5月は特に給食キャンセル食材で冷凍食品が多く、単位も大きくて取り扱いが難しかったです。そんな中で帰国できなくなった技能実習生、失業した外国人、買い物難民の妊婦さんや留学生たちに定期的に配布してきました。

【生きることは食べること】を合言葉に、できる人が出来る範囲で行って来ました。

その仕組みは荷物を引き取りに行く人と、中継地となりまとめて受け取る人とのネットワークで、やっと最終の必要としている人たちに届くことになります。受け取りのボランティアさんの存在がなければ成り立ちません。I-house(立命館大学 留学生寮)の石原さん、軽トラを駆使した農家のNさん、ベトナムコミュニティのVさん、滋賀県国際協会のTさんの存在も大きかったです。今回の活動は食品ロスの削減と外国人の社会的孤立を防ぐネットワークづくりにも貢献できたようです。落ち着いてきた現在もフードドライブと連携し月1~2回品物を届けています。さらに発展してどんな時でも機能するように、これらの活動を多くの人に知ってもらうことも大切だと感じました。

(KIFA副会長 中西 まり子)

コロナの影響で仕事が無くなったり帰国できない外国人技能実習生や留学生に、生活支援としてマスクやフードバンクの食料を届け、喜んで頂きました。

今回をきっかけに新たなネットワークが広がり、今後も繋がりを続けていきたいと思えます。

(滋賀県議会議員 駒井 千代)





留学生寮では、コロナの影響により学食がなくなり困っている留学生や、授業のオンライン化や長期休暇での帰国ができないという理由で時間のできた留学生たちが、よく料理をするようになった。そのような状況の中でKIFAさんのご協力によりフードバンクから食料をいただき、喜ぶ留学生は非常に多かった。また普段では買おうとしない日本の食材も今回は試してみようということの手にとる人もいて留学生の食の新たな可能性に繋がった。

(立命館大学 食マネジメント学部3回生 石原 来美)



オンライン 日本語 ひろば



開催場所の立命館大学への立入が禁止され、日本語ひろば「きずな」の再開に向けスタッフ間での話し合いがすすめられました。皆で検討の結果、オンライン（Zoom）での開催を決め、7月から日本語ひろばオンラインが始まりました。生徒も約30人が日本語の学習を進めています。

この3月から、日本語ひろば「きずな」は対面での活動を中止していましたが、7月からは「Zoom」を使ったオンライン授業を開始しました。

会場として使わせていただいている立命館大学を使用できなくなったこと、またコロナ感染のリスクが心配というスタッフの意見から、オンライン授業を始めることにしました。

しかし、Zoomを使うのが初めての方も多く、まずはメールやLINEでZoomの使い方をやり取りし、テストや勉強会を重ねて準備しました。

また、対面と違って相手の様子が分かりにくい、資料を見せにくい、グループ分けはどうする？…など、疑問がたくさんありましたので、すでにオンライン授業を始めておられた彦根の日本語講師、浅井華代先生にオンライン授業の進め方について、スタッフ対象のオンライン講習もしていただきました。

そして、7月からスタートしたオンライン授業は、毎回約20名



以上の参加者を迎え、初心者、初級、中級、上級の4つのレベルで数名のグループに分かれ、1時間の授業を行っています。

日本語を話したいという参加者さんの希望にこたえるべく、私が担当する初心者グループの方には、絵や写真、ジェスチャーも使い、笑いの絶えない授業をしています。

(KIFA会員 山本 しのぶ)

オンライン 英語講演会



4月の草津市国際交流協会総会後に予定していたエジプト出身のナハラさんによる英語講演会を、8月23日(日)にオンラインで開催しました。



最初、KIFAから講演の案内をいただいた時の正直な感想から申します。紀元前にさかのぼる四大文明の発祥の地エジプトから、はるばるこの関西に留学生が来ておられたことにまず驚きました。肩書きを見れば大学で教えておられるすこぶる優秀な方ようです。そんな方の難しい学術英語が私にわかるだろうかと心配になりつつ、参加申し込みを決めたのです。

しかし、講演が始まると、心配は一気に吹っ飛びました。講師は明るくて温かい笑顔の聡明な女性でした。エジプトの地理的特徴、地域による文化や言葉の違い、歴史的背景、近年の日本との交流など一般的ではあるけれど、これまで殆ど知らなかった近代エジプトの姿を簡潔に語って下さり、よく理解できました。特に印象に残ったのは、古都アレキサンドリアの文化と雰囲気、同じく古都である京都に似ており、ナハラさんが京都に最初来られた時にほっとされたという話は興味深く伺いました。一気にエジプトとの距離が縮まった気がしました。



今はインターネットやテレビを通じて世界の情報は多く届いていますが、私たちにはまだまだ知らないことがいっぱいあります。知らないこと、知ろうとしないことは、恥ずかしいことだと改めて思います。この講演をきっかけに、古代エジプト文明だけでなく近代エジプトのことをもっと知りたくなりました。知らなければいけないと思います。井の中の蛙にならないよう、心がけたいものです。ナハラさんに心より御礼申し上げます。

(KIFA会員 千貫 菊子)



世界平和女性連合主催 スピーチ大会優勝



世界平和女性連合さんが主催された「滋賀スピーチ大会」で見事最優秀賞を、ミャンマーのシュエジンピョウさんが獲得され、さらに全国大会への出場も果たされました。



2020年7月25日(土)に世界平和女性連合(WFWP)が主催してくれた女子留学生日本語弁論第18回滋賀大会に参加させていただきました。KIFAの中西先生が連絡してくれたことがきっかけでした。自分の初めてのスピーチでもあり、日本語でスピーチしないといけなかったのも、実は今回のスピーチコンテストに出場することに抵抗がありました。実際にやってみると、人の前に出て話したり発表することはそれほど難しくはないことがわかりました。これまでの日本や日本人について自分の思い、自分の母国と日本の違いなど皆に伝えることができるとても良かったと思います。そして自分が滋賀大会で最優秀賞をもらって、全国大会にもチャレンジできるようになったので、とても嬉しいです。今回のスピーチは私にとって貴重な経験になったと同時に、自分に自信を持てる良い機会になりました。

(立命館大学理工学部 ミャンマー出身 シュエジンピョウ)



Phoungさんの

日本語教育支援システム

前KIFA理事のPhoungさんが、ベトナムで日本語を学ぶ人のために新しい日本語教育支援システムを作成しました。



Parcel Project Education

Currently there are many human resource organizations focusing on Japanese language training. However, the number of IT workers who have enough Japanese language skills still has not met the requirements.

We have researched and proposed a Japanese training method using projects. The project

consists of many levels. For example, on a basic level, it's a daily activity like cleaning the room, or arranging objects in a room nicely. At a higher level, it is the study of a new product, a new service, or a new system. Learners and instructors will communicate in

Japanese with Japanese friends to do the projects. With this method, learners will naturally develop their communication according to work situations, develop their knowledge and life skills, work skills, and best personal development.

(KIFA会員 Dinh Thi Dong Phoung)



在滋賀 ベトナム青年会



長年にわたり、草津市国際交流協会と協働で一緒に活動している、在滋賀ベトナム青年会。その活動について、青年会の会長・副会長のお二人より紹介して頂きます。

団体紹介

私たちは在日ベトナム青年学生協会(VYSA)の滋賀県支部です。日本で在留するベトナム人の若い世代を集めて文化交流活動をしています。私たちのモットーは、滋賀県在中のベトナム人ひとり一人をつなぐコミュニティーを作り、第2の家族として協力しあうことです。3か月ごとに日本人を招待し、パーティーや文化交流活動を行います。イベントで伝統的な音楽、料理などを用意してお互いの文化について会話ができる機会を作っています。毎年お正月には特別なイベントが行われています。みんなで集まって1年間に起こったことを共有するのがベトナムの習慣です。また日本で育った子供たちにとってもベトナムの文化に触れる大切な機会でもあります。特に日本人との文化交流活動を重視し、日本とベトナムの文化をつなぐ架け橋になることにつとめています。



活動

夏や秋はVYSAメンバーに地域の文化イベントへの参加またはボランティアを奨励しています。今年はコロナで多くのイベントがキャンセルになり参加できなかったのですが、6月末、新型コロナウイルスの状況がおさまった頃に桐生山でBBQを開催しました。またKIFAと情報共有して、ボランティアの日本語クラスや、女性の日本語スピーチ大会などにメンバーが参加しました。



今後の方針

ベトナムに旅行したい、または出張したい人のために、無料のベトナム語や英会話のクラスを開いてみたいと思います。現在、日本人とのスポーツ活動を頻繁に計画しています。

VYSA副会長 立命館大学情報理工学研究科 Nguyen Ngoc Hai
立命館大学経済研究科 Le Hoang Minh

Introduction The Vietnamese Youths and Students' Association (VYSA) - The Shiga Chapter, starting in 2011, is a non-profit organization that represents the young Vietnamese generation in Japan. Our motto is to strive to create a community that includes every Vietnamese living in Shiga Prefecture so that we can live harmonically as a second family.

Every 3 months, we joyously invite the Japanese people to join the festive events, full of colorful music, cuisines, and people. The most special event is the annual Lunar New Year Party. Despite busy working or studying, it's a custom to take the time to participate in the party. Here, we celebrate the traditions and share everything that happened during the year. This is also a very special occasion for the children who are raised in Japan to connect to the Vietnamese culture. Last but not least, we invite Japanese people to join the party for cultural exchange and building up stronger relationships between Vietnamese and Japanese in Shiga.

Recent activities During the festival seasons, VYSA encourages all of its members to take part in or volunteer in local cultural events. Last June, when the situation of COVID-19 improved, we organized a BBQ party with night camping at the Kiryu mountain. We also coordinate with KIFA to get the members to attend the bi-weekly volunteer Japanese class, as well as contests, such as the Japanese Speaking Competition for women.



Future plan In the future, we wish to open free Vietnamese/English conversation classes for those who want to travel or have business trips to Vietnam. Currently, we have plans for frequent sports activities with Japanese like cycling or marathon.

(VYSA会長 大阪大学 理工学研究科 Ngo Hoai Nguyen)

学生会員

服部君の活動報告



KIFA学生会員の服部くんは、立命館大学在学中に外国人支援活動が続けられ、大学のキラリと輝く学生におくられる「+Rな人」に選出されました。そして昨年草津市国際交流協会が「身近な法律ハンドブック」の英語版の発刊のきっかけを作ってくれました。



こんにちは！立命館大学院生の服部です。私は経済学研究科出身で、今夏に博士前期課程を修了します。約6年半、草津や大学にはお世話になりました。本記事では、在学中に経験した「国際」にまつわる課外活動を2点紹介します。

私が所属していた経済学の研究科では8割以上が留学生で、ほとんど日本語ができないうえに、家族を帯同してきている学生も多かったのです。そのため私は同じ研究科に在籍する留学生の生活をほぼ毎日支援していました。留学生が生活面で直面する課題は、国民健康保険、光熱費の支払い、宗教絡みの食材調達、マンション契約、通信契約、病院/学校/保育園とのコミュニケーション等が挙げられます。これらの問題解決には想像以上にストレスがかかります。この活動をきっかけに、KIFAの多文化共生イベントへの参加を決め、留学生の生活課題を地域へ発信するようになりました。先日刊行いただいた「身近な法律ハンドブック」は、そのニーズが形になったものです。刊行に携われてとても嬉しかったです。今後は、この冊子がより多くの留学生に役立ってほしいですし、より多くの立命館生が留学生生活支援に協力してくれると嬉しいです。



播種機指導のようす

また私は在学中にJICAの青年海外協力隊としてウガンダで、長期ボランティア活動(1年半)をしていました。活動は、主に担当地域におけるお米の生産拡大を目的とした基盤作りに取り組んでいました。例えば、お米の育て方を農家へ教えたり、お米の栽培指導員を育成したり、精米所の運営改革を促したり、農業器械の開発と導入に取り組んだり

しました。滞在中に意識したことは、「私がいなくなっても活動が継続されること」です。住民にとって本当に必要なことを見極めて、金銭的な取引関係を考慮しながら、システム作りに奔走しました。新型肺炎の影響で、帰国が早まってしまったのですが、今も活動が続いていると嬉しいです。 (立命館大学 経済学研究科 服部 孝政)



ジンバブエの農業展示会のようす

募集 草津市国際交流協会 日本語ひろば「きずな」10周年記念上映会 ～きずなからバトンをつなぐ～

多文化共生に係る継続事業である日本語ひろば「きずな」の10周年を記念し、事業の軌跡と成果をまとめた動画「きずなからバトンをつなぐ」を作成しました。

その内容を確認し、「きずな」の果たしてきた社会的役割を再認識するための上映会を開催します。

この事業は草津市との共催事業として実施します。

内容は後日、SNSでの発信も検討中です。

なお、新型コロナウイルスの影響により、内容、開催方式を変更する場合があります。

- 日 時：2020年11月28日(土) 14:00～16:00
- 場 所：草津市民交流プラザ「大会議室」
- 参加者：多文化共生に関心のある人どなたでも
- 参加費：無料
- 参加予定者：約50名
- 内 容：第1部：動画「きずなからバトンをつなぐ」上映
第2部：多文化共生に関する意見交換会
- 申 込：草津市国際交流協会までメール(kifa-japan@coda.ocn.ne.jp)にて



募集 やさしい日本語サロンで、いろんな国の人たちと話ませんか!

毎週火曜日に開催している「やさしい日本語サロン」に参加し、やさしい日本語を使っている人な国の人たちと話してみませんか。Zoomによるオンラインサロンと、UDCBKでの対面サロンが月約2回ずつあり、不定期開催イベントもあります。なお、新型コロナウイルスの影響により、日程、開催方法に変更がある場合があります。

ZOOMによるオンラインサロン

- 日 時：2020年11月10日(火)、24日(火)/12月8日(火)、22日(火)
- 時 間：11:00～12:00
- 対 象：どなたでも
- 申 込：草津市国際交流協会までメール(kifa-japan@coda.ocn.ne.jp)にて



UDCBKでの対面サロン

- 日 時：2020年11月17日(火)/12月1日(火)、15日(火)
- 時 間：10:20～12:00
- 場 所：アーバンデザインセンターびわこ・くさつUDCBK(JR南草津駅前)
- 対 象：どなたでも
- 申 込：草津市国際交流協会までメール/電話(077-561-2322)にて

